この推移傾向は，全国における男女別進学率の推移傾向とほぼ一致するもので，全国においては昭和44年度以降，女子の進学率が男子のそれを上回っている（「我が国の教育水準」(昭50)）。

従って，今後は，教育機会の拡充を図るため，低位にある本県高等学校の進学率を全国水準まで引き上げる必要があろう。

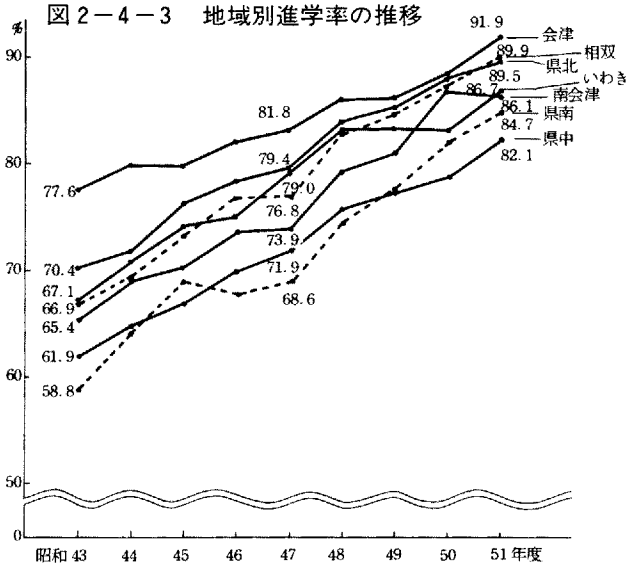
(2) 地域別進学率

各地域における進学率の推移を昭和43年度から昭和51年度までにおいてみると，各地域ともほぼ上昇傾向を示している。

特に，県北，会津，相双の各地域は昭和51年度において他の地域に比較し，高い進学状況を示している。

また，各地域の進学率の伸びを昭和43年度から昭和51年度までの８年間においてみると，県北19.1ポイント，県中20.2ポイント，県南25.9ポイント，会津14.3ポイント，南会津20.7ポイント，相双23.0ポイント，いわき19.6ポイントとなっている。

図２－４－３　地域別進学率の推移



注：１．「学校基本調査報告書」(昭43～昭51) による。
２．地域進学率＝{(地域の進学者数)＋(地域の就職進学者数)}÷(地域の中学校卒業者数)×100

昭和51年度における進学率の低い県中及び県南地域の状況をみると，県中地域は進学率が７地域中最も低く，過去８年間における進学率の伸びは，７地域のそれの伸びの平均20.4ポイントとほぼ一致している。

県南地域の進学率は，県中地域に次いで低いが，過去８年間における進学率の伸びは，７地域中最高となっている。

このことから，進学率の地域間較差は，縮小傾向にあると想定される（図２－４－３）。

従って，今後は，進学率の地域間較差を更に縮小させるための施策を講じ，較差解消を図る必要があろう。

(3) 入　学　定　員

高等学校入学定員の推移を昭和42年度から昭和51年度までにおいてみると，全日制高等学校の入学定員は，昭和42年度から昭和47年度まで減少し続け，それ以後，増加に転じ，昭和51年度において30,972人となっている。

しかし，定時制高等学校の入学定員は，昭和42年度以降逐年減少し続け，昭和51年度において1,060人となっている（図２－４－４）。

次に，全日制高等学校の入学定員の状況を地域別に，昭和47年度から昭和51年度までの進学志願者数に占める入学定員の割合からみると，各地域のその割合は，昭和47年度82.3%から96.0%の範囲に分布していたが，昭和51年度には92.6%から 107.1%の範囲に分布し，そのうち，県北地域が最低の割合を示している。